

令和3年度温室効果ガス排出量実績（報告）

1. 温室効果ガス排出量

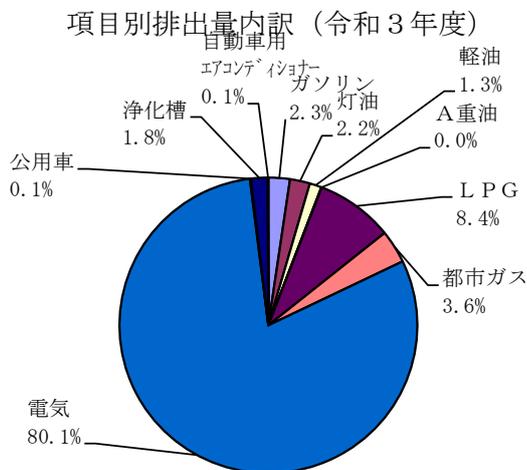
令和3年度における洲本市地球温暖化対策実行計画に基づいた事務及び事業に伴い排出された活動量及び温室効果ガス排出量は、次のとおりとなっています。

調査項目	単位	活動量			温室効果ガス排出量 (kg-CO2)					
		平成29年度 (基準年度)	令和3年度	平成29年度比	平成29年度 (基準年度)	令和3年度	平成29年度比	令和3年度 構成比	増減率	
燃料使用量	ガソリン	L	57,076.6	42,795.7	-14,280.9	132,415.70	99,284.00	-33,131.70	2.3%	-25.0%
	灯油	L	40,959.6	37,127.8	-3,831.8	102,054.50	92,494.94	-9,559.56	2.2%	-9.4%
	軽油	L	18,753.5	21,406.7	2,653.2	48,389.56	55,228.90	6,839.34	1.3%	14.1%
	A重油	L	900.0	600.0	-300.0	2,453.90	1,634.94	-818.96	0.0%	-33.4%
	LPGガス	kg	47,262.4	118,760.2	71,497.8	141,899.99	359,132.19	217,232.20	8.4%	153.1%
都市ガス	m ³	87,725.0	70,570.0	-17,155.0	192,284.84	154,483.44	-37,801.40	3.6%	-19.7%	
電気使用量	kWh	7,086,965.9	6,683,104.7	-403,861.2	3,616,467.70	3,416,617.60	-199,850.10	80.1%	-5.5%	
公用車の走行量	km	710,891.3	635,503.5	-75,387.8	4,976.77	4,275.83	-700.94	0.1%	-14.1%	
浄化槽によるし尿及び雑排水の処理	人	3,969.9	3,272.2	-697.7	92,722.03	77,682.84	-15,039.19	1.8%	-16.2%	
自動車用エアコンディショナーの使用	台	179.0	194.0	15.0	2,559.70	2,774.20	214.50	0.1%	8.4%	
合計					4,336,224.69	4,263,608.88	-72,615.81	100.0%	-1.7%	

項目別構成比

令和3年度の温室効果ガス排出量合計では、対基準年度比**1.7%の減少**となっています。

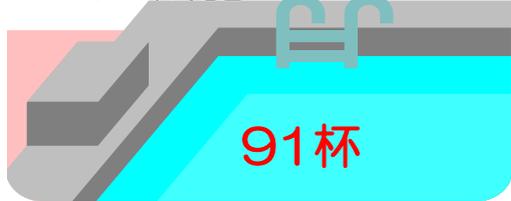
電気使用量による温室効果ガス排出量が全体の**80.1%**を占め、燃料全体（ガソリン、灯油、軽油等）の割合が**17.9%**となっています。



対基準年度比の削減量

72,615.81 kg-CO2 とは、

25mプールだと



※1kg-CO2=0.509m³

※25mプール容積 25m*13m*1.25m=406.3m³

吉野杉が1年間に吸収する二酸化炭素量では

11,086.4本



※住宅の柱が一本取れるような吉野杉が1年間に吸収するCO2の量 6.55kg-CO2/年

2. 項目別の温室効果ガス排出量

＜二酸化炭素(CO₂)を排出するもの＞

「ガソリン使用量」における排出量は、対基準年度比**25%の減少**となっています。介護福祉課等で使用量が増加していますが、農政課、サービス事業所、地域生活課等で使用量が減少しているため、全体では減少となっています。

なお、前年度比では**0.3%の増加**となっています。

「灯油使用量」における排出量は、対基準年度比**9.4%の減少**となっています。地域生活課等で使用量が増加していますが、生活環境課、教育総務課で使用量が減少となっています。

なお、前年度比では**3.3%の増加**となっています。

「軽油使用量」における排出量は、対基準年度比**14.1%の増加**となっています。総務課、地域生活課、商工観光課等で使用量が減少していますが、生活環境課、建設課等で使用量が増加しているため、全体では増加となっています。

なお、前年度比では**24%の増加**となっています。

「A重油使用量」における排出量は、対基準年度比**33.4%の減少**となっています。用地課で使用量が減少しているためです。

なお、前年度比では**33.4%の減少**となっています。

「LPガス使用量」における排出量は、対基準年度比**153.1%の増加**となっています。消防防災課、商工観光課、サービス事業所等で使用量が減少していますが、教育総務課で使用量が大きく増加しているため、全体では増加となっています。

なお、前年度比では**0.3%の減少**となっています。

「都市ガス使用量」における排出量は、対基準年度比**19.7%の減少**となっています。教育総務課、子ども子育て課等で使用量が増加していますが、総務課、生涯学習課等で使用料が減少しているため、全体では減少となっています。

なお、前年度比では**13.7%の増加**となっています。

最も排出量の多い「電気使用量」は、対基準年度比**5.5%の減少**となっています。商工観光課、子ども子育て課、健康増進課、教育総務課等で使用量が増加していますが、建設課、生涯学習課、学校教育課、地域生活課等で使用量が減少しているため、全体では減少となっています。

なお、前年度比では**5.7%の増加**となっています。

<メタン(CH₄)・一酸化二窒素(N₂O)を排出するもの>

「公用車の走行」における排出量は、対基準年度比**14.1%の減少**となっています。介護福祉課、生活環境課で走行量が増加していますが、総務課、地域生活課等で走行量が減少しているため、全体では減少となっています。

なお、前年度比では**6.3%の増加**となっています。

「浄化槽によるし尿及び雑排水の処理」における排出量は、対基準年度比**16.2%の減少**となっています。

教育総務課、都市計画課等で減少となっています。

なお、前年度比では**7.1%の減少**となっています。

<ハイドロフルオロカーボン類(HFCs)を排出するもの>

「自動車用エアコンディショナーの使用」における排出量は、公用車の増加により、対基準年度比**8.4%の増加**となっています。

なお、前年度比では**4.3%の増加**となっています。

3. まとめ

第3期の実行計画では、温室効果ガス排出量を平成29年度と比較して3%以上の削減を目標としています。令和3年度の取組結果は、基準年度比**1.7%の減少**となり目標を達成できませんでした。

その要因としましては、令和3年度には、「すもとアルファビアミュージアム」が「S-BRICK」として、「市民工房」が「A-BRICK」として、普段使用されていなかった施設がレストラン・キッズスペース・コワーキングスペースなどの複合施設に生まれ変わったことにより、電気使用量が増加しました。

また、令和2年度から引き続きコロナ禍にありイベント・行事が縮小される一方、感染症対策として真冬・真夏であっても換気をする必要があり、空調に使用するLPガス・都市ガス・電気使用量を抑えられなかったことにあります。

令和2年度のように休校や施設を閉館にするなど感染症対策が制限されなかったことも活動量を抑えられなかった要因にあげられます。

本計画は、市の事務・事業に係るものであり、計画の推進には職員一人ひとりの取り組みだけでは限界がありますが、今後も職員の意識高揚を図るとともに、地球温暖化対策の取り組みを進めるため、第2期までの実績を振り返りこれまでの取り組みを継承・発展させた「第3期洲本市地球温暖化対策実行計画」の実行に取り組んでいきます。